

刊夕日一十月十

常盤每日新聞

定価一紙五銭 一月五拾五銭 半年二百五十銭 一年五百銭
 廣告料五銭以上 第一行五拾五銭
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常盤毎日新聞社
 印刷所 常盤毎日新聞印刷局

新らしき生命

真繼 雲山

印度に生れた佛教は、支那に入つて翻譯せられてゐた六、七百年の間に餘ほど整頓された。それが朝鮮を通過するの約三百年かゝつて日本に傳へられた。爾來これ千四百年になる

今日では新義州から釜山まで一晝夜足らずで來られるものが、三百年かゝつてゐるのは頗る長久すぎるやうでもあるが、佛教といふ一つの宗教が、當人の半島人の文化を瀟過して玄海を渡つた期間としては、むしろ短かきに失した。それゆゑ支那は佛教を整備して儒道二教と混雜しつゝも佛教をその文化史上の營養素として吸収したのが、朝鮮は單に急行列車で素通りせしめた運搬人夫たりしに過ぎず。支那には支那の佛教あり、日本には日本の佛教ありて、共に誇るべき獨自の功業を有するも、肝腎の日本佛教の直接母体であつた朝鮮には、誇るべき何物もない。

朝鮮民族を代表すべき朝鮮佛教の築かれなかつたことは、必ずしも素通りの罪ではなく、爾かあるべて因縁に禍ひされたのである。即ち高麗を亡して打つて出

た世祖李成桂以降、李明歴代の傳燈政策として、極端に佛教を弾壓した結果、李朝五百年の間に佛教は花も實も根絶やしとなつてしまつたと同時に、國民の信仰信念も根絶やしとなり、佛教を枯死せしめた李朝自身も、やがて亦た自ら枯死するに至つた。

これこそ佛教の因果應報なりと今更らしく批判づける意味はないが、佛教とは人間が人間として生きてゆくべき道を教へ、心の光りを與へたものであるから、個人として信念なきものが風船玉のやうに、ついでついでとよ。



皮膚の弱
 い人、切
 り傷等の
 ある人は、鹽湯につかる
 とよい。

くであらうやうに、國家として國家信念の抜けたものに、國家的重心のあらう筈はなく、李朝の亡びたのは因果應報として當然の理數であつた。

朝鮮の佛教が、灰身滅智を文字通り直譯したやうに固着してしまつたのは、李朝の彈壓政策に禍ひせられたこと勿論であるが、左様に彈壓を受けて撲滅せねばならぬやうな無價値有害なるものであつたことは、佛

教徒自身の無力無責任に原因した。實際その當時には佛教の百弊、頻出の状にあつたやうである。

佛教は、佛教それ自体を傳へるだけならば單なる運搬人夫に過ぎぬもので、佛教として何等の光輝は發しない。その教へを自らのもの

【朝】いり豆腐、もみのり
 【晝】カニ、じゃがいも、キャベツ、マヨネー
 スーツ

【晚】松茸、ねぎ煮びたし
 のとして新たな生命を産み出すところに價値があるのである。その大きく具体化されたものが祖師の出現であり一派の開宗である

それ程までに大きくはゆかずとも私には私としての新らしき雲山宗が開創されてゐるので、たゞ壇家がなだけの話である。

日本には現在十三宗五十六派が分立してゐることは本質より見て一種の煩瑣ではあるが、同時に五十六派の新らしき生命の出現を意味し、その教義の宣揚せらるゝところに日本佛教は榮えて來たのである。

く、學的批判の上では一束に古臨濟と見られてゐるが全体として一宗を出でない故に、そこに検討もなく精進もない。たゞ法燈、影暗き本堂に坐して讀經するだけといふ羅漢佛教に、榮ゆる道を見失つたのである。しかし近年は、負ふた子に教へられて、朝鮮佛教も今や黎明期に入りつつあるやうだ。私は、朝鮮佛教徒が徒らに古き傳燈を追ふのみでなく、そこに新たな生命の巨燈を点出し來らんことを望む。 〔完〕

【笑】
 賣手の顔を見ながら古物商の親爺が言つた。
 『その時計は物はたしかにいゝから出所がたしかなら直ぐ買ふんだがな』
 スリ「親爺さん、心配するなつてことよ。これを持つてた人はまづ正直な人だつたぜ』

紅葉 鮎
 渡邊 何鳴



紅葉 鮎
 渡邊 何鳴
 紅葉鮎洲草やうやく枯れ
 秋の鮎瀬にあらはれて光り
 けり
 花畑にいみじき蜂のひそみ
 けり
 風わたる稲田はるかや木槿
 垣
 たぐりもく深山葡萄や露の中

科人婦。科外
院醫坂井
 町田町平
 番九五五話電

● **は切貸** ●
 の番三四三話電
 ミシサ
 !!!へーシクタ和昭

内科
 一般
 醫學博士 **難波 陸**
 平町新川端(釜屋新宅向)
 電話五〇二番

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

イヤ！君！
 いゝ冬服を求めたね
 断然三三年型だよ
 いやコレカネ！
 例の……「ソレ」
正札堂

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
板ガラス
 菓 子 壘
 硝 子 食 器
 其他各種
松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

中村齒科醫院
 平町鍛冶町七

平上水道擴張にからみ

好間、平兩當局紛争

平町の契約不履行を怒り 好間村長が抗議を提出す

平町當局の態度注目さる

五万人給水を目標とする平町上水道の大擴張工事は今夏見事に竣功し三万町民は半永久的に水不足の煩みから解放されるに至つたが此の上水道擴張にからまり平町對好間村及び大瀧江筋組合三當局内に容易ならざる紛争惹起したるもの、

如く最近極秘裡に好間村長金成清治氏以下大瀧江筋代表者は平町に伏見町長と會見何事か重大な抗議を爲した事實がある

探聞するに事件は當の好間村當局大瀧江筋平町當局とも口を緘してゐる平町が去る四年中上水道擴張を計畫從來の取水一ヶ三分を二ヶ六分に増取水する契約に際し大瀧江筋による好間村内水田の灌漑用水が不足したる場合を

考慮し平町はモーター揚水機を設置提供することになり此れを實行して來たが今春に至り平町は突如此の揚水機を無断で取り除きした結果金成村長等の激怒する處となり前記の如き抗議提出を見るに至つたものと

であるが

平町側では大瀧江筋

からは平町のみでなく湯本町入山炭礦、磐城炭礦等でも取水して居り平町が二ヶ六分に取水を増加しても水田の水不足等は到底考へられない一水田の水不足が出現しても發動揚水機を取

り付ければ十分に揚水出来るからモーター揚水機を常設して置く必要はないものとして取除したのだと稱してゐるから今後該問題が如何に解決するか好間村の抗議に對する平町當局の態度は重大視さる

早生赤梨出荷

今日三百廿函を 郡農會が斡旋

石城郡農會の斡旋で東京市場に出荷して好評を受けた石城名産長十郎梨の移出は終つたので同會では引續き早生赤梨の東京移出をなすべく計畫してゐたが本日好間村上好間果樹組合により早生赤梨八噸車一車三百二十箱の初移出したが何しろ初めての試みだけに結果は各方面から注目されてゐる

役員決定

準備進む

調停法講演

中島判事が 十三日席上で

平町十三日會では来る十三

皆川 大川 近藤 木幡 羽山(賞品及記録) 淡路 内村(會計)佐藤 大内 (會場整理)田中 佐藤 (樂器)田中 小沼(タイム) 酒井(衛生)加澤 森 萩原(競技)永島(準備)土 岐 志村 大内 金澤 (召集指導)山口 鈴木 菅波 安延 武田(トラツク審判)穴井 日野 (フキルド審判)新妻 小沼

稲の初刈

昨年より やや豊作

秋の收穫期も近付いて郡下農村は大繁忙を極はめてゐるが江名町大字上神白字永崎地内農家中には早くも稲の刈取を開始した者もある同方部稲作の成績は昨年より稍良好の程度

農民の懐工合を

當込んで督促開始

慄え上る農村

縣稅務平出張所では政府が農村救済策を發表して以來郡内山間部農村方面の滞納整理を手控へたが昨今夏秋露の高値續き農作物の豊作等で農民の懐工合も大部膨んだものと見て近く大々的整理に着手する事となり既に所員が三班に別れ第一

待望の平商業

グラウンド竣工

披露をかねて

スポンジ大會

十四日に

講演決定

兵隊の

平商業學校野球部では過般來先聲團、平商友會、庭球柔劍道、辯論、文藝各部からの應援補助を受けてグラウンド修理中の處竣工も近づいたので來月中旬の披露式を兼ねスポンジ野球大會を開催すべく目下準備中

名な中村町出身の橋本繁子 女史の講演會を催すべく交渉の結果来る十四日午後六時

小川水利滞納処分

二十一日に競賣を執行

石城郡小川江筋水利組合の六年度組合滞納者は下小川村に四名、平窪十一名、神谷九名、草野七名、大浦十一名計四十二名是の滞納額百五十八圓餘に達して居るので組合では再三整理督促の上遂に過般是の強制處分を執行したが来る廿一日午前十時より事務所内に於いて差押物品の競賣を要ふ事になつた

水源地視察

伏見町長案内 平婦人會員が

既報平婦人會員百餘名は本日午前九時第二小學校集合伏見町長、外各小學校長に引率され上野原水道貯水池及び沈澱池を見學した

開所督促

蠶業組合から

既報平蠶業取締支所は去る八月中竣加し既に縣當局に移管されたが今だに職員の見守り空屋同然の儘となつて居るので石城蠶業組合では此儘設置かれてはと近く執務促進の陳情を行ふ模様である

運動會

日取決定

郡内各小學校ではスポンジゾーンに入つてそれ運動競技の開催準備中だが決定したのは内郷第一小學校十四日、神谷小學校二十日、内郷尋高十二日、草野

平町人事

回出生

△新川町十七 遠藤春治氏 二男茂
△南町三十五 鈴木小次郎 氏四女千代子
△回 婚 姻
△田村郡御館村折戸二十 六今泉源龜(二五)大工町 十九上野トクエ(二四)

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話三〇九

模型飛行大會迫る

優勝めざして小僧さんから

洋服姿の紳士まで飛び出し

猛練習のファン連

本社後援いづみや玩具店主催第四回郡下模型飛行機競技大会も愈々除す處僅か四日の後に迫つたが昨今平町内の空地から近郊の田圃或は遠く内郷、好間、四倉、小名濱等各地共優勝を目ざす練習飛行が行はれて居る模型飛行機が秋晴れの碧空にトンボの如く入り亂れて飛翔快走してゐる様は全く明な近代風景の一ツ……ファン増加も物凄く小學生から中等學生果ては商店の小僧番頭さんやら子守

さては八字髯の洋服姿まで飛出して居る程で模型飛行競技も既に子供の領域から大人にまで發展した感がある模型飛行の研究も進んで滞空記録もぐんぐん上昇するばかりで前回の優勝記録一分七秒を遙に破る優秀なレコードが續出してゐるから競技當日の成績も期待される目下の大會の参加機は不明だが大体二百台を突破するだらうと豫想され大會當日は未曾有の大盛況を呈すだらう

四倉市況

前日より二圓の安値
相場は此の邊保合か

四倉市況に於ける十日の取引は總數五百五十六貫で前日より取引數を増加したが相場は最高五十五圓六十錢、最低三十五圓、馴五十一圓三十錢で高値馴共前日より二圓方の安値を示したが此の邊が止りて今後の取引相場は大巾の上下はないものと豫想される

精神病者脱走

石城郡川前村大字沼邊字鹿野六

平署に檢舉

石城郡平窪村字中平窪六八生れ當時上遠野村大字瀬字

リヤカ泥棒

石城郡平窪村字中平窪六八生れ當時上遠野村大字瀬字



明日のラジオ
今映も明日も北
西の風晴れ

今晚の部

後六〇〇 子供の時間
獨唱と齋唱 宮城縣師範
學校附屬小學校兒童
アノ伴奏佐藤千賀子
後六二五 英語講座「中
等科」二ノ四「テキスト
ジョーヂケインジャー
後七三〇 講演「日本の
方へ六圓で賣拂つた事發覺
檢舉されたが餘罪十數件あ
ると

またぞろ平驛で

騷落者が捕はる

息子が夫婦取りで

本日午前十時半頃平驛待合室で新婚旅行を氣取つた若い男女が徘徊してゐるのを平署員が怪み本署に引致取調べると男は長野縣下伊那郡淵村草矢町二一八〇小澤三郎(三)女は同縣北佐久郡春村生れ當時上田市松尾町そは屋更科方女給川内重子(三)で男は昭和五年上田市商業學校卒業の際重子と知合になつたが小澤は米穀商の次男坊として小使は不自由しない處から女に誘惑されて最近男が實家に移つてからも依然關係を續けてゐたが女は思ふ様に逢へない爲め他國に二人で暮らしてせうと男に親の金五十餘圓を持出さしめて去る六日兩名はドロンを極め各地を流

江名の底曳

力瘤を入れる
當業者連

石城郡江名町の漁業家は本月一日より底曳漁業を開始したが開始以來連日の天候不良で目下の處漁獲はないが本月中旬頃から相當漁獲

近衛司令憲源 氣象通報
全國ニュース
明日の部
前九一〇 料理献立「鱈の鹽むし」松本良雄
前一〇三〇 家庭講座
後一〇五〇 新日本音楽と胡弓「花園外二曲」遠藤榮子外
後二〇〇〇 家庭大學講座「子供の心」(四)嬰兒の習慣 帝大木教授青木誠四郎
後二二五 運動競技「六

ある見込み尚本年の底曳漁船は例年より十隻増加された爲め是が準備で目下同漁港は活氣を帯びて居る

善光寺團体出發
水戸運輸事務所主催の信濃善光寺參詣團体七百六十名に參加した平町よりの希望者八十餘名は昨日午前六時半平驛發列車にて出發した

詐欺漢 役
安達生れの男
既報安達郡二本松町生れ目下住居不定無職前科五犯佐久間吉之助(五)の詐欺事件の公判は去る八日平區裁判所に於て開廷懲役一年半言ひ渡されたが本日控訴權を拋棄服役した

荒井君 合格
部長試験に
過般行はれた本縣巡查部長の採用試験に平署よりの受験者中同署内勤特務の荒井喜一郎が見事合格した

平職業紹介所報告
求人者の部
△農夫 三十五才 委細面談(鹿島村某)
△女中 三十才 尋卒 給料面談(平町某)
△自動車助手 十八才 高卒 三圓外仕着(内郷村某)
△徒弟 十六才 尋卒 仕着小使(平町某)
△回求職の部
△文撰工 三十三才 高卒 給料面談(大浦村某)
△外交員 三十一才 高卒 給料面談(内郷村某)
△女中 四十三才 文字を解 給料面談(平町某)
△給仕 十六才 高卒 給料面談(好間村某)

姦通の男女に 懲役六ヶ月求刑

言渡しは十八日

新妻教諭の入賞記念

詩南社が 短歌會開催

既報双葉郡浪江町大字權現堂字町頭二番地無職小野ハル(三)が夫佐々木一男(三)が出稼中出入の大賀欣一(三)と情を通じ同棲してゐるのを歸宅した夫に發見され遂に姦通罪で告訴された事件は十一月九日午前九時九時 既報磐城高等女學校教諭新妻熊男氏は過般福島民報新聞で募集せる懸賞民謡に一等入賞したので平町詩南社で同氏の入選を祝し来る廿

幕末剣士

【禁載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第一百七十二席 平手造酒

綺麗な金遣ひ

平手造酒は江戸を立退き豫て聞いて居つたには下總飯岡の助五郎と申す者は關東有名な俠客との事、此者の方に参り一二年彼處で遊ばうと市川まで来た、丁度晝頃でした花屋と云ふ小料屋に

造「酒を持つて来い」

と注文した

女「入らつしやいませ、どうぞ此方へお上り下さいませし」

造酒は草鞋を脱いで店に上り衝い立を前にして壁際に陣取り

造「酒を一升持つて来い」

云ふと女中は吃驚して造酒の顔を見てゐたが

女「あの一升持つて参りませうか」

造「さうだ一合や二合は面倒だ、一升持つて来い」

女「長まりました、お肴は何にいたしませう」

造「どんな物が出る」

女「お茶碗にお刺身、それに鯉の洗肉に鯉汁でございます、その他に鹽焼又甘煮もございます」

造「それでは洗肉に鹽焼を持つて参れ」

女中はやがてお酒を持つ

て来る
造「肴は何うした」
女「只今持つて参ります」
造「早く持参しろ、コレ」
「こんな小さな器では面倒だ、杯洗を貸してくれ」
杯洗に注いでグイと飲むその容子の恐ろしいこと女



中はいよゝゝ驚いた
造「もう一升つけて参れ」
女「長まりました」
と云つたがこれを帳場で見てゐた當家の主人が
主「あのお侍は服装が悪いあんなに酒を飲んで勘定がないと云はれては大損害大

なるやうな物はないか」
女「お香のものがございます」
造「それでは香の物を持つて参れ」
據なく造酒は香の物で酒を飲んでゐた、すると向ふに居た三十恰子の男、さり

概な所で追返す事にしよう
この事を女中に注意した、平手はそんな事は気が付かない
造「コレ／＼女、刺身があらば持つて参れ」
女「お生憎様、もうお刺身はございませぬ」
造「それでは甘煮を持つて参れ」
女「お氣の毒様でございませぬが甘煮もございませぬ」
造「皆買れ切れか」
女「左様でございませぬ、仕出しが来ましたからお肴はなくなりました」
造「さうか、何ぞ酒の肴に

つとした服装でこれも鹽焼で酒を飲んでゐる客がある其者が何か女中に云ひつけたがやがて刺身を持つて来た、それをチラリと見た平手
造「これ／＼女、あの客には刺身を持つて参つて何うして俺には出さぬ」
女「あれは前からのお誂へでございませぬ」
造「黙れ此奴、俺の身装が粗末なる故勘定が出来ぬと思ひ肴はないと云つたな、不埒な奴だ、服装は粗末なれども料理屋にて酒食を致す代金には差支ない、これを見ろ」

と懐中から羅紗の紙入を出し手を差入れて之だけあれば宜しからうと引摺んで叩き附けた、小判小粒で十兩餘り
造「これ程の金があれば酒を飲み肴を喰へばとて當家に迷惑をかけるやうな事はあるまい、主人にこれへ参れと申せ、少し申し聞ける事がある、不埒な奴だ」
膝元へ刀を引附けた、その時刺身を取寄せた例の客が平手の前に来て
○「どうぞ旦那、御勘辨下さいませ、當家の女中が主人の爲を思つてそのやうな事を申したものと存じますこれも忠義でいたした事、そこをお察下さいませ」
造酒はこれを聞いて
造「ウムさうか、拙者の服装が粗末なる故酒食の代金があるまい、さすれば主人が迷惑いたすと思ひ斷つたものであるか、恚う考へる

物質一般 各種債券類
三井質店
平町四丁目川岸
電話六〇六番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に読める
川崎巡回文庫
電六三〇番
込次第規則書進呈

學生服賣出
倉小黒な丈夫な黒小倉へ取揃へ豊富に提供
暖かい丈夫な黒小倉へ取揃へ豊富に提供
通學服を豊富に提供
特價にて提供

小學用(長ズボン付) ¥0.80
全……特製品 ¥2.00
中學用特製品 ¥2.90

なかや洋服店 平二 電203

毛糸
本年度新色全部揃いました
御値段は昨年と同じで差上りませぬ
一オンス 十五錢
〔見本帳進呈〕

シモトヤ糸店

度量衡、計量器、吸入器、酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番